

暮らしの中の花、投稿を

J A全農岐阜キャンペーン

新型コロナウイルスの影響で需要が落ち込んだ県内の花き生産者を応援しようと、J A全農岐阜は、ツイッターで「暮らしの中の花」をテーマにした写真を投稿した人らに花束を贈るキャンペーンを展開し、生活に

花を取り入れるよう呼び掛けている。

J A全農岐阜によると、例年3～5月は花の需要が高まる時期だが、新型コロナウイルスのため結婚式や入学式などのイベントが相次いで中止となり、売り上げは前年の6割に落ち込んだ。結婚式で多く使われる花材フラインネルフラワーの県内生産者でつくる「ぎふフラワー研究会」によると、単価も



「県内の生産者が手掛けた花を薦めたい」と話す女性従業員＝岐阜市日ノ出町、華友園岐阜高島屋店

6～7割に低下。岐阜生花市場協同組合の4月の売り上げは前年同月の約6割で、5月に「母の日」需要で盛り返したものの、厳しい状況が続いているという。

J A全農岐阜の「県の花を応援キャンペーン」は計4回。初回は30日までで、ツイッターで「J A全農岐

花束を贈る。

華友園岐阜高島屋店（岐阜市日ノ出町）の女性従業員は「県内の生産者が手掛けた花をお薦めしていきたい」と話した。ぎふフラワー研究会の若原成行会長（62）は「まずは花を知ってもらい、さらに花材として使ってもらえたらうれしい」と話していた。（佐名妙予）